

愛産研 ニュース

愛産研ニュース

平成 17 年 8 月 5 日発行

No.41

編集・発行

愛知県産業技術研究所 企画連携部

〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割

TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033

URL <http://www.aichi-inst.jp/>

E-mail info@mb.aichi-inst.jp

8 月号
2005

今月の内容 三州瓦の歴史、現状及び今後の課題について
融雪舗装用建材としてのタイルの熱伝導率向上
はばたけ！常滑焼

三州瓦の歴史、現状及び今後の課題について

【歴史】 愛知県は粘土瓦の最大産地で、当産地の『三州瓦』というブランド名は広く知られております。三州瓦は、江戸幕府の防火政策により瓦の普及が奨励され始めた時期に興ったそうです。この地で瓦産業が盛んになった理由として、西三河地方で産出する土は成形性に優れているため、瓦の成形・乾燥・焼成を容易に行なえたことと、生産者は高浜川、新川などの河川と海運を利用することにより、焼成した瓦を当時の江戸へ低コストで輸送できたことが考えられます。このことを別の視点から見ますと、遠隔地に対してでも高品質な瓦を安価に供給可能であったために、商業的に瓦の大量生産が成立したとも言えます。このことによって【大量生産が可能】 【量産効果による生産コストの引下げ】という良循環が生まれ、今日の三州瓦の隆盛へと繋がっています。

【現状】 図に瓦の全国総出荷量並びに三州瓦の出荷量及び全国シェアの、最近 10 年間での推移を示します。新設住宅着工戸数の減少に引きずられる形で、この 10 年間で全国の瓦総出荷量は、ほぼ 3 分の 2 に減少しました。

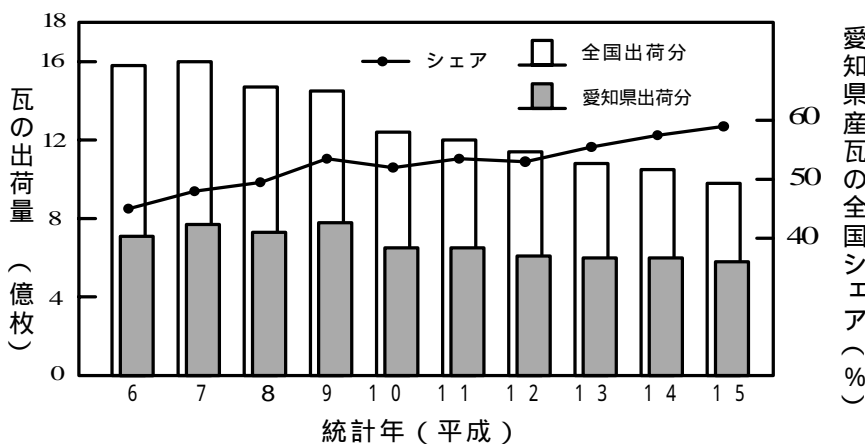


図 愛知県産瓦の出荷量及び全国シェア (出典工業統計調査)

しかし三州瓦の出荷量は微減に留まっており、その結果三州瓦の全国シェアは平成 15 年に 59% に達しました。三州瓦が健闘している要因は、バブル崩壊後のデフレスパイラルの中、三州瓦の伝統としている価格性能比の高さと平板瓦などに見られる豊富な品揃えなどが多くの消費者に支持された結果と思われます。

【今後の課題】 工業生産はその宿命として、生産規模が大きくなるほど地域環境に対して大負荷を与えます。瓦産業も例外ではありません。年間 6 億枚もの粘土瓦を生産すれば、それに伴う排出物も無視できませんし、当産地での粘土使用量は年間約 2 百万トンにも達します。つまり他産地より環境に対する配慮がより求められることとなります。

当研究所常滑窯業技術センター 三河窯業試験場での取組みとして、昨年度は製造工程における不良瓦を有効活用し、リサイクル率 50% 以上の瓦の量産技術を開発致しました。この技術は平成 17 年 2 月 4 日に特許を共同出願しています。